

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2010年7月23日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合)【No.134】

JR内革マル派責任者の田岡氏はカンパを集約する重要人物！

前号では、「JR革マル派43名リスト裁判」において、JR総連・東労組側が、かつてJR内に革マル派組織が存在していたことを自認した準備書面は、田岡耕司氏の陳述書を基に作成されていることを述べた。この陳述書の冒頭には、次のように記載されている。

警視庁公安部や警察庁などは、現在も、JR内に革マル派の組織が存在し、革マル派がJR総連やJR東労組などに影響力を及ぼし、これらの組合を支配しているかのように主張宣伝しています。しかし、このようなことはまったくのデタラメです。私は、動労およびJR東労組の組合員でしたが、組合員当時、革マル派に所属しており、1997年4月ころから1999年12月ころまで、JR内の革マル派のグループの責任者の地位にいましたので、JR内の革マル派の推移については良く知っています。以下この点について事実を申し述べます。

「1997年4月ころから1999年12月ころまで、JR内の革マル派のグループの責任者の地位」にあったという田岡氏とは、どのような人物か。「JR東労組を良くする会」が作成した「43名リスト」には、「マングローブの一員(小田とともにマングローブの財政担当)」「91年の革マル派との対立当時、妻(T大革マル出身の教師)は革マル中央派として夫婦で対立があった」「目黒さつき会館4Fに常駐...坂入拉致事件でトラジャとの連携の下、坂入奪還を中心的に担った」と記載されている。

また、JR内革マル派のカンパの集約の実態を検証した本情報「No.8」において、元東労組中央執行委員の本間雄治氏(現JR労組委員長)の陳述書を紹介し、以下の通り、田岡氏は、カンパを集めて革マル派の党中央に渡す重要人物であることも指摘した。

カンパは職場単位 支部単位 地本単位でそれぞれ集められ、地本単位の財政担当者(財担)が集まるJR革マル派の「財担会議」が月1回、目黒さつき会館の地下で開かれていました。...(中略)...横浜地本では...(中略)...1997年ごろから書記長の私(注:本間氏)が財担を引き継ぎ、少なくとも2002年まで私自身が毎月、「財担会議」に出ていました。...(中略)...そして私や梁次氏は、いわば集めたカンパを上納する側でしたが、各地本の財担が集めたカンパを受け取り党中央に渡すのは小田裕司氏と田岡耕司氏の仕事でした。

田城氏の後援会長の小田裕司氏もJR内革マル派の責任者か！

本間氏が陳述したJR内の革マル派カンパの集約が行われていた時期は、田岡氏がJR内革マル派の責任者の地位にあった時期と重なる。田岡氏の陳述で、本間氏の証言の信憑性が大きく高まったといえる。そして、田岡氏とともにカンパを党中央に渡していたという小田氏も、当然、田岡氏に並ぶ責任者の地位にあったと考えられる。先の参院選でJR総連組織内候補として立候補し当選した田城郁氏の後援会長を務める小田氏は、2000年6月にJR総連委員長に就任したが、それ以前は、JR北海道労組の委員長だった。つまり、JR内革マル派の責任者がJR北海道労組の最高責任者を同時に務めていたことになるのではないか。

JR総連は、過去にはJR内に革マル派組織があったことを認めた以上、この疑問に明確に答えなければならない。